



No. 100

発行人 渋沢 茂

発行所・事務局一般社団法人千葉県社会福祉士会
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1

塚本千葉第5ビル3階

TEL 043-238-2866

Fax 043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: office@cschwiba.com

※ 点と線はメール配信でも読めます！

特集 「点と線今昔物語」



～ 今は昔、総の国に社会福祉理念の定着と進展を思う団体ありけり

社会福祉の充実に向けて、実践の科学的・専門的發展のために自らを高め、利用者・市民と共に社会資源の整備を推進していきたいと考えました。

「でも私達一人ひとりでは「点」にすぎない。まず手をつないで「線」ぐらいになっていてはどうか。」

1992年11月に、「点と線」が届いて以来、さまざまな分野で活躍する「点」を「線」に繋げていくことが承継され、今後も新しい物語をつむぎ続けていくことでしょう。

と、なむ語り伝えたるとや ～

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 2～4 | 《特集》「点と線今昔物語」 |
| 5 | 社会福祉士のわ |
| 6～7 | 報告「大人の文化祭」「点と線で発信受信したいこと」 |
| 8 | 点と線発送作業のご案内 語り場道場「何が出来たか、何が出来るか」 |
| 9 | 「被災地支援活動協力員」名簿登録のお願い |
| 10～11 | トピックス(意思決定支援に関して思う事) |
| 12 | 事務局だより |

特集

点と線 今昔物語

たかはし社会福祉士事務所

高橋 利宏

〔たかはしとしひろ〕



昔、むかし：一九九五年、平成七年から四年間、私は組織広報委員会の一員として『点と線』の編集をしていました。当時、千葉県社会福祉士の会員は九五入。とても少ない点を、広報を通じて線で結んでいくんだと、意気込んでいました。

（ご存じないかも）で原稿を打ち、切り貼りして、それを印刷屋に持ち込み、刷り上がった『点と線』を封詰・発送と、柏・銚子・成田で作業し年四回発行していました。

特集記事は何にするか、誰に原稿をお願いするか、頭を悩ませましたが、柏での発送作業はわいわいガヤガヤ楽しい作業でした。

最後の編集となった九九年四月発行の第二八号を見ると、会員数は二三人に増え、送付先も市町村・社協・福祉施設など、発行部数は千部を超えていました。

さて、定年退職して二年。両親が亡くなり実家が空き家になっていたので、郵便受けに社会福祉士事務所とシールを貼って、成年後見の仕事をしています。

成年後見の報酬は、一年後の後払い。しかも、その額は、成年被後見

人の財産額によって決まるという仕組みです。財産管理から身上保護へと流れが変わり、社会福祉士の活躍が期待されると言われながら、何回訪問し、どのような支援を行ってきたかを報告する書式はありません。報酬の算定ルールは、「管理財産額に応じた基本額＋α」です。

専門職後見人は、その仕事内容により、応分の対価が支払われるべきと考えます。

社会福祉士が働く分野は様々ですが、皆さんはプロの自覚がありますか。プロの仕事がされていますか。対価はちゃんと支払われていますか。

NHKのプロフェッショナルやテレビ東京のガイアの夜明けで特集を組まれるような社会福祉士の登場を期待しています。

※三月二四日の新聞報道によれば、後見人報酬を業務量で見直しすることを最高裁が通知したとのことです。

かしわつ子食堂あさひ

枝川 政子

〔えだかわ まさこ〕



『点と線』一〇〇号の発行、おめでとうございます。

県内各地に点々と散らばっている社会福祉士がこの会報を介して繋がって線となっていくようにと願って、初代の事務局長であった藤代恒昭氏（故人）が中心となっています。

『点と線』と名付けたと記憶しています。

私が広報委員を担当したのは、はるか昔のこと。思い起こしても曖昧なことも多くなってしまうと思いますが、当時を振り返ってみたいと思います。

います。

思い出の第一番は、何といつても編集会議です。柏市内のファミリーストランでの開催。そこに、平日の夜、成田市から、銚子市から、我孫子市からと集まってきたものでした。保育園児二人の子育て中の私に配慮して、柏市まで足を運んでくれたメンバーの温かい気持ちには感謝がありません。このことは、以後の活動への大きな支えとなりました。

インターネットがまだない中で、の広報紙づくり。もっぱら電話、郵便、FAXを使っていました。手書き原稿を送ってもらってワープロ編集しての紙面づくり。私自身がアナログ人間ですから、編集でも随分助けてもらって、切り張り有りの手間暇かけての手作り紙面でした。会員全員への郵送作業は、東葛地域の力を結集して、仕事後に集まってワイワイと楽しく行いましたね。私は子連れ、ここは人海戦術でした。

記事では、自らの老人福祉の現場体験を基に特集を組んだことが心

に残っています。介護保険制度発足前の措置時代です。『チームで動く』と題し、ホームヘルパー等の調整を、医師が加わった「サービス調整チーム」で行った事例を取り上げ、それを「成田市だったら」と柏市VS成田市で意見交換しました。記事にできたこと自体で勝手に満足していました。

今、社会情勢の変化は著しく、人々の生活も大きく変化する中、生活課題は増大しています。今更ですが、社会福祉士の方々には「一人」と「一人の生活」に寄り添える支援を期待します。



北柏地域包括支援センター

齋川 英文

「さいかわ ひでふみ」



縁にも円にも延にもなる

情報誌

発行一〇〇号、おめでとうござい
ます。

私が、広報部会委員として、編集メンバーに加えていただいたのが、平成十年〜平成十五年の約五年間でした（今も、發送作業には積極的に参加しています）。

当時は、年四回発行していました。編集会議は、柏市内のデニーズで行っていました。広報部会のメンバーは東葛地区の会員が多く、集りやすい場所でした。銚子から見えていた

Iさんには申し訳なかったですが。会議でのメンバーは、高齢・障がい分野で勤務する方が中心でした。今と違いインターネットの環境はなく、テーマ・取材・連絡もアナログ式の流れで展開していました。

記事の作成はと言うと、パソコンでの編集ではなく、まだ、ワープロで入力していました。

もちろん、オール白黒です。紙面に会員に伝えたい思いと、取材に協力していただいた方の思いも、白黒紙面に表現することを目標として年四回発行していました。千葉支部には、他府県の広報誌があり、その時のテーマを決める際の参考にするため、支部まで通い紙面の参考にすることもありました。

紙面構成は、記事が部会長のEさんに届くと、自宅で娘さんと切り貼りをして整えてくださいました。その娘さんは、このお手伝いが縁で、出版会社に就職されたと聞いています。

編集会議の進行は、「感情労働」を、うまく熟されている皆さんから

学ぶ場でもありました。

感情労働とは、一九八三年にアメリカの社会学者アーリー・ホックシールド博士の著書である「The Managed Heart」の中で出てくる言葉です。日本では、二〇〇〇年に出版されています。日本名は『管理される心―感情が商品になるとき―』（ホック・シールド・A・R・著 石川進・室伏亜希訳 世界思想社）です。

感情労働の定義は、「業務の一部として、人と接する際の自分の表情や声の調子等のコントロールがもとめられる仕事」と定義されています。

編集会議をしながら、こんなスキルを学べたことは、今でも意識して相談業務に向かい合う際に活かすことができているように思えます。

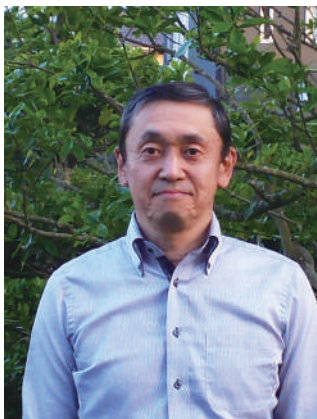
最後に発送作業を皆さんと行います。場所は、柏市内の「青和園」で行っていました。当時のH園長の、御厚意で年四回お借りする事ができました。今では、メール配信も選択できますが、一回の発送部数は、

一六〇〇部程度あり、行政・障がい・高齢・児童の各分野の施設や相談機関へ届けました。ここで、多分野の社会福祉士の縁が生まれ、円となり、業務で延進することが出来ました。今も繋がりは延びています。ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

特別養護老人ホームさざんか園

五十嵐伸光

「いがらしのぶみつ」



私が『点と線』の編集に関わらせていただいた頃は、まだ会員が百名くらいの任意団体の時代でした。成田市役所の高橋さんを編集長に、柏

市役所の枝川さんはじめ柏近郊に編集委員の主力があったため、編集会議は柏市役所近くのファミレスで行っていました。私が銚子から、高橋さんが成田からそれぞれよく通ったものだと思いきい出されます。その後成田で原稿を作成し、私の施設に印刷機があったため銚子に原稿が送られ、印刷・折込を経て、柏の老健施設に送付し、柏近郊の仲間の手で配布作業をしていただきました。銚子から柏に片道二時間半、一人での印刷、折込と、私にとっては負担が多かった編集作業でしたが、何か非常に楽しかったように思います。

銀行員から福祉施設の事務を経て相談員として現場に入り、基本からしっかり福祉を学ぼうと社会福祉士の資格を取得した私でしたので、編集会議は、現実起こっている福祉の課題や実情を生々の声で感じられる場所だったように思います。メンバーもそれぞれの分野で活躍し、真剣に仕事に向き合っている方達でしたので、自分たちで「福祉

現場を変えていこう」くらいの勢いがありました。そんな仲間のネットワークが今の私を創ってくれたと思っています。

福祉の現場が、複雑にそして難しくなっている現在、利用者にとって本当に意味のあるネットワークが大切になっています。会員の数からすると「点と線」から「面」へ、そして三次元の立体へと会員を結び付けていく、そんな「社会福祉士会」であってほしいと思います。



社会福祉士のわ

松戸市役所

福祉長寿部介護保険課

神山 裕也(かみやま ゆうや)



節目の号にスペースを割いてくれて、ありがたいです。本当は僕みたいなボンクラではなく、三橋さんとか林さんとか山崎さんとか歴代会長や大先輩に譲ればいいのですが、せっかくなので駄文を。しばしお付き合いください。

「今度、千葉で社会福祉士の全国大会があるのよ。で、その会議に来てくれない？喋れる社会福祉士探しているんだって言われれば、ほら、思いつくの一人じゃん。端に黙って座っていればいいだけだから。」どこを見てもミレニアムという

単語が飛び交っていた頃、こんな電話を大学の同期から受け取ったのが、この会に関わるきっかけだったと記憶しています。当時の私は障がいのある方の支援をする仕事をしていた、仕事も覚えていろいろ勘違いし始める若者でした。仕事を早めに切り上げて、短パン半袖のパジャマみたいな格好で会議に遅れて入るような無礼者。冷ややかな視線には、何年も経ってからの笑い話で気がつきました。(本当すいません)

会議内容はほぼ覚えていません。なぜなら、終わってから飲みに行った席の刺激のほうが強かったためです。いい年をしたおじさん達から自分と同じ年くらいの若い方まで、冗談も混じりつつ福祉のことについて真摯に意見を交わす姿に、大きなショックを受けました。「あー、おれ、完全に井の中の蛙だわ。完全にこの仕事をなめてたわ。まずいなあ、恥ずかしいなあ。」なんてことを思いつつ、資格を活かすことに、真摯でいなくちゃいけないことも気が付いた瞬間でした。一期一会と

言いますが、あの時の、同期からの誘いの電話を断っていたら、今の僕はいません。〇野くんありがとう。

最初の職場は五年間お世話になりました。この頃の経験は、僕の基礎を作ってくれています。様々な失敗もありましたし、挫折もありました。次の仕事を決めずに退職を決意した僕には、数件のラーメン店からのオファーがありました。行くところないならおいでよ、って。結果として、会で出会った方がきっかけで四街道社協に移ったのですが、当時は社協とかよく知らんし、願書出すまで四街道なんて行ったこともなかったのです。願書出しに行っただけが道に迷い、事務所に「そちらはどこにありますか？」なんて聞くようなヤツを採用するのですから、それはもう懐の大きい組織でしたね。このままずっと務めるのかなと思っていました。昨年退職しています。あちこちへご挨拶もろくにできないまま退職しましたので、この「点と線」で多くの方にお伝えできればうれしいです。十四年もいると、組

織ではそれなりの役割を求められます。当然、現場からは遠くなり、組織のマネージメントや事務仕事などが主戦場となる中、いつの間にか後輩職員が地域や相談の現場で奮闘している姿が、正直うらやましく思っていたのかもしれませんが。そんな悩みも、この会で出会った多くの方々に聞いていただきました。

昨年四月より、今の職場にいます。散々迷いましたが、これまたいろんな方々が、面白そうな方向に向かわせてくれました。そして、頑張れ頑張れと言われながら何となく進むのも、これまでと同じです。井の中の蛙は、人生の節目ごとに社会福祉士会という大応援団に背中を押されながら、どこまでも泥臭く、大海原を目指してます。そして私も、そのうち誰かの背中をおつぺすことができれば、そりやもう嬉しいですよ。

報告

大人の文化祭に参加して

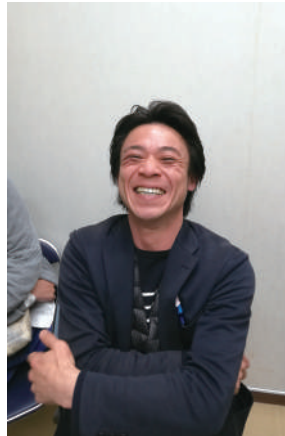
認定NPO法人

まごころネットワーク

社会福祉士

吉田 圭介

「よしだ けいすけ」



二月二三日、当会主催の『大人の文化祭』が「でい・さくさべ」を会場として十三時から開催されました。

会場には各委員会のブースが設けられ、ミニラーメンや焼き芋・スイーツなどを振る舞いながら、各委員会の活動内容の紹介や意見交換などが行われ、なごやかな雰囲気のもと参加者同士が気さくに交流で

きる時間となりました。展示のなかには会設立当初の広報誌もあり、千葉県社会福祉士会の歴史を感じさせられました。

その後は、理事らによる寸劇や、今回の企画を提案した竹嶋理事の自作短編映画がスクリーンに映され、今回の企画にかける熱い想いを語り、会場内は一気に熱気に包まれました。

続けて、現在子育て中ながらも幅広い分野で活躍されているシンガー・ソングライターの松本佳奈さんによるトーク&ライブが行われました。今までのご自身の人生体験談（親の離婚、いじめや不登校、詐欺による借金、結婚と出産など）と、そこから感じた「普通って何？私を決めつけないで」という想いをもとに書かれたリアルな歌詞と、力強くも澄みわたるような美しい歌声に、しばし時間を忘れ聞き入ってしまいました。また、内容も普段のソーシャルワークに関連しており、共感を覚えたと同時に、私自身の社会福祉士としての使命感を奮い立たさ

れる、とてもセンセーショナルな演目となりました。

そして今回の二つ目の目玉として、歴代会長のトークセッションが行われました。山崎前会長が当日用意されたお題の中からサイコロの目によって一つ選び、そのお題に沿って三人の歴代会長（山崎元会長、染野前会長、渋澤現会長）が想いを語るといふ、興味深く、かつ画期的な企画で、笑いもありの楽しいセッションとなりました。その中で「社会福祉士が集える場所を提供し、みんなと話すことで「広げる」ことより「深める」ことを第一義にしたい」という渋澤会長の強い想いが今回の開催につながったのだと感じました。

そして、第一部の最後は『ナイトセッション』僕の思い！私の思い！』と題した参加者同士によるグループセッションが行われ、日頃抱えている悩みや会への想い、今後していきたいことなど、一人ひとりが分野や地域に関係なく想いを語り合える有意義な時間となりました。

第二部では、松本さんを囲んでお酒を酌み交わしながら引き続き、渋澤会長をはじめ、福祉にかける熱い想いを持った参加者達が語り合うことで、より互いの関係性を深めることができました。

今回の開催にあたり、会場を提供していただいた社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会の理事長から、次回の開催時にも協力してくださるとの言葉もいただいております。今後も、一人でも多くの方と「深める」ことができる場所の提供づくりとして、大人の文化祭が恒例行事となっていけばいいな、と思いました。



点と線で発信受信したいこと

『大人の文化祭』では、広報部会のブースに、『点と線』で、発信・受信したいことを参加者にフリーで書いてもらおうスペースを設けました。多様な角度からご意見をいただきました。

考えるべきテーマ

- ・ 刑罰について
- ・ 野田の事件をSWとして風化させない
- ・ 子どもと若者のこと（立ち遅れているから）
- ・ 発達障害の方の就労支援
- ・ 現場でACP活用されていますか
- ・ 身寄りがなく、低所得の方の財産管理と身元保証

社会福祉士の事例紹介

- ・ 刑事司法SW
- ・ 児相で働くSWの活躍
- ・ インタビュー記事
- ・ 会員にならない社会福祉士
- ・ 息抜き
- ・ サイクリング仲間募集

・ 社会福祉士 ●●部！どんな息抜きしている？

・ ストレス解消法

・ 「セルフマネジメント」などメンタルヘルスにかかわること

・ 専門家としてアンガーマネジメント（怒りのコントロール）とは

社会福祉士について考える

・ 社会福祉士は、本当はどんな仕事なの？ やりがいい、苦勞

・ 社会福祉士ってすごい人だぞ!! 専門家であり、ジェネラリストだ

・ 皆さんの年収はいくらでしょう？

・ 「私って社会福祉士」と思う一瞬を一言で

社会福祉士の活動紹介

- ・ 委員会のメンバーの集合写真
- ・ 基礎研修①②③どんな研修するの？ 社会福祉士として得になる？

地域を見る

- ・ 社会福祉士から見た自分の地域自慢！
- ・ 地域のコミュニティづくりについてのヒント

自由・平等・配慮

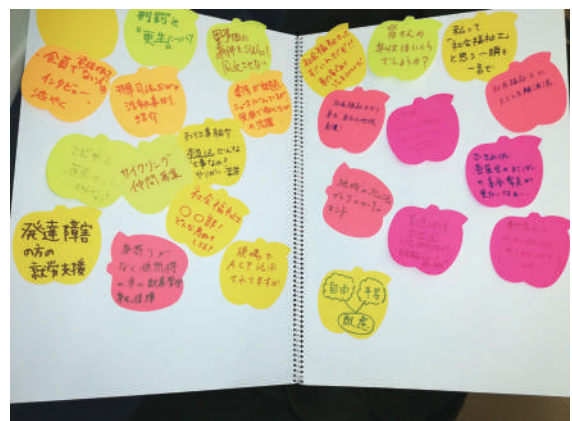
・ 利用者本位に、利用者の自由を尊重しようという考えと、平等な運用を考えたときに、ルールにがんじがらめになってしまいうことになる。それを、制度を運用するうえでSWが配慮の中で、どう対応していくかというバランスが難しい。

コメントは、アイデアの宝庫でした。今号でも、いくつか参考にさせていただきます。これからの『点と線』誌面に対してのアイデアを募集します。

事務局メール office@cswchida.com
までお願いします。

広報部会員

山口 利史「やまぐちとしふみ」



点と線の発送作業の様子を 「紹介」

平成三十一年三月二十日、柏市社会福祉協議会いきいきプラザ二階にて、福祉道場との初のコラボ企画で

「点と線」の発送作業を十八時〜二十時の二時間行いました。総勢二十八名の参加があり、社会福祉士だけではなく、精神保健福祉士やマッサージ師など多様な職種の方が垣根を越えて集いました。

住まいや勤務地も東葛エリアだけではなく、千葉市や船橋市、茂原市など遠方からの参加者もありました。

会場に着くや否や「お久しぶりです」「おう、その節はどうも」「初めまして！」など、ふだんの職場を離れた顔で気軽に話せる雰囲気となります。

仕事での悩みを話したり、名刺交換をしたり、「是非ウチで働いて下さいよ！」なんてスカウトや、「〇〇さん、『普通』ってなんだと思う？」なんて哲学的なやりとりもあったり。「そういえば先日の社会福祉士の文化祭

ってどうだった？」「この間の相談受けた件、近況はねー」「あの研修受けてきましたよ」「え〜どうだった？」「飲み会またやりたいね」「いい社会資源があるよ！」などなど。皆さん宛名貼りや封書詰めなど、手作業をしながら思い思いの話に花が咲きます。

最後は、円になり順番で自己紹介。〇〇で勤務しています、〇〇です」と聞くと「おお、あそこあの人が！」なんて新たな発見があるものもいつものこと。「今日の晩御飯は〇〇です！」とウケばかり狙う人がいるのもいつも通り。

この発送作業は、楽しく参加するのとで、出会いやつながりの相乗効果やソーシャルワーカーのエンパワメント（力の回復）にもなっていると思います。

皆さんも、タイミングがあれば、ぜひご参加してみたいかがでしょうか？

広報部会員

古澤 肇（ふるさわ はじめ）

岩間 太一（いわま たいち）



語り場道場『何が出来たか、何が出来るか』

点と線の発送作業後、引き続き『語り場道場』を一時間強、開催しました。近隣で起きた痛ましい事件を踏まえて、福祉に携わる私達は「何が出来たか、何が出来るか」を考え、語り合う場を設けました。社会福祉士、精神保健福祉士、資格を問わず

テーマへの思いを持った約三十名の参加者が集まり、五グループに分かれ、ワールドカフェ方式を活用して意見交換や対話を行いました。

それぞれの立場から「思ったことや感じたこと」を話し合い、その後、グループ内の数名が別のグループへと移動し、話題を広げ、キーワードから内容を深めました。

事例検討や批評批判ではなく、一人ひとりが自分ごととして、また、当事者意識を持って「もし自分だったら」と考えながら、「今できること」や「これから時間をかけてできること」を真剣に語り合いました。

その中で、「支援者があきらめないこと」「連絡ではなく連携を。引継ぎ先が動き出したところまで確認を」「通報、相談のハードルを下げるための仕掛けを」「親の支援やケアが必要」「児童分野の情報が少ない、知らないのが現状、まずは、知るところから」「支援チームの中で誰がコーディネートするのか？コーディネートができる人材を育てていくことが大事」「身近な地域の中に相談できる場

があることを子どもから高齢者まで幅広く周知していく」「権利擁護とは？尊厳とは？」「地域共生社会、我がごと丸ごと」「縦割り行政の弊害」

「問題が起きた時、また予防のためのソーシャルアクション、団体交渉のような動きが必要。先輩ソーシャルワーカーの活用から行政や地域社会への提言へ」等といったキーワードや課題が出ました。さらに「報道が事件の真実や本質を見えにくくしていること」や「実際に頑張つて支援をしている人に安易に『がんばれ』とは言えないが、いつでも支援者同士が相談に乗れる体制を整えておくことが今できること」と、メンタルヘルスを含む支援者へのサポート体制の必要性も出されました。

アンケートには、「確かに、もはやもやした気持ちがあり、それを吐き出したのでよかった」「皆さんと話すことでできることが明確化できて、これから動いていけそうです」「子どもの支援、親の支援、支援者の関わり方、いろんな視点の話を聞けました」「難しい答えのないことを、考え

る、意見を聞く。専門職って何か、そもそも何ができるのかを深く考えるきっかけになりました」等のご意見がありました。

ソーシャルワーカーとして「何が出来たか、何が出来るか」を考える、対話するきっかけづくりになったと思います。今後、それぞれのフィールドや職場でも、向きあうべきテーマでもあります。皆さんも身近なところで考え、対話していきませんか。※この記事は、福祉道場さんのフェイスブック記事を参考、引用させて頂きました。

広報部会員

古澤 肇「ふるさわ はじめ」
鈴木 将人「すずき まさと」



『被災地支援活動協力員』

名簿登録のお願い

災害対策委員会では「千葉県社会福祉士会大規模災害対応ガイドライン」に基づき、大規模災害が県内、県外で発生した場合、社会福祉士会としての対応を定めています。

具体的には、被災地からの支援要請（他道府県の社会福祉士会から災害支援の派遣依頼等）があつた場合に、迅速かつ円滑に人員を確保できるように、平時においてあらかじめ「被災地支援活動協力員名簿」を作成しています。

災害対策委員会としては、災害発生時に速やかに対応するためにも「被災地支援活動協力員名簿」を最新の名簿にしておく必要があります。名簿を更新することにしました。

ぜひ名簿への登録をお願いします
（現在登録されている方も更新手続きにご協力ください）

被災地から派遣要請があつた場合、当会のホームページにその内容を掲載すること併せて、名簿に登録された方には、その情報を速やかにお

知らせすることになります。

これまでも、熊本地震や平成三十年七月豪雨等の被災地支援に会員を派遣しています。

実際に派遣を行う場合は、相手先が求める業務内容と派遣を希望される方の事情を調整し派遣決定されることとなります。もちろん派遣を希望されないことも自由です。

旅費、活動費として一日当たり五千円の補助があります。（日本社会福祉士会からも活動支援費が上乗せされる場合があります。）

ぜひ「被災地支援活動協力員名簿」への登録についてご協力をお願いいたします。

登録をご希望いただける方は、「氏名（フリガナ）、年齢、性別、会員番号、住所、連絡方法（電話番号、メールアドレス）」を千葉県社会福祉士会までお知らせください。「被災地支援活動協力員登録」と付記し、メール、ファックス又は郵送（点と線１ページ上欄参照）にて事務局までお送りください。

TOPIX

意思決定支援に関して思う事

【E-FIELD の研修を受けてきました】

流山こまぎ安心館

居宅介護支援事業所

高崎 慎太郎

「たかさき しんたろう」

E-FIELD とは、Education For
Implementing End-of-life

Discussion の頭文字をとったもので、「人生の最終段階にける医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づいた意思決定支援教育プログラムのことです。

平成三〇年度の厚生労働省委託事業、人生の最終段階における医療体制整備事業「患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」（神戸大学医学部が主催）を受講しました。

この研修会は医師を含めた二名以上のチームでの参加が条件にあり、今回は、医師、看護師、薬剤師、居宅介護支援専門員の四名で参加しました。

全国八ブロック十二箇所で開催さ

れ、私たちは関東ブロックで参加しました。全部で三三チームが参加していましたが、応募多数で参加できないチームも多数いたようです。参加者の職種は、印象では医療職が多く、福祉職は少ないように感じました。

研修の目的は、人生の最終段階における、医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインに基づき、患者の意向を尊重した意思決定のための相談体制の整備を行うことです。

そのなかで、意思決定を押し進めるツールのひとつとして、アドバンス・ケア・プランニング（以下 ACP）を学んできました。

ACP とは、患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標を明確にするプロセスを指します。

終末期においては約七〇%の人が

意思決定することが不可能であり、事前に患者の意向を聞いておくことが重要であるとされています。早期に介入をすれば、QOL が保たれ、予後が伸びたとの事例もあります。

問題点として、患者が将来を予測する事自体が困難であり、現在の判断が未来も本当に正しいのかとの疑問をもつことや、早すぎても、遅すぎても判断が不明確になりがちなので見極めが難しい点が挙げられます

実際の進め方は、目安が予後十二ヶ月前後で、代理決定者（家族や親しい人）と一緒に価値観を話し合い、人生の最終段階の治療や・ケアの目標や具体的な内容に関する話し合いにより自己決定を促すようにします。

意思決定を促すこと、意思決定ができなくなった場合に備えて、家族等にも参加してもらいながら繰り返し話しをすることが大事であることが分かりました。

ACP の愛称も「人生会議」に決まりました。

研修では、緩和ケアの医師や心不全医療に関わるチーム員など、日ごろ話しができない方達と一日講義を一緒に聞け、グループワークやロールプレイを行い、とても有意義な一日でした。日ごろから、話し合いが出来る環境づくりが大切だと思います。

二〇一九年度も七月ごろに研修の参加募集が出ると思いますので、ぜひ参加してみてください。

【まとめ】

患者の意思決定支援において、絶対はなく、日々、環境や意思は変わるものであり、「大切にしたいことは何か」を検討することが重要であると感じました。支援には多職種で関わり、独りで決めないこと、十分な対話をして、



【人生の最終段階における医療に關するシンポジウムに参加して感じたこと】

(平成三二年三月十日)

千葉県医師会にて

アースサポート(株) 社会福祉士

俵 はるみ

「たわらはるみ」

高齢者を支援する地域包括支援センターの相談員が対応するケースには、終末期に関わる内容も少なくない。自宅で死にたいけれど、家族には迷惑をかけたくはない。入院は絶対に嫌だ！病院に行ったら入院になるから具合が悪いけど我慢する。死んだら自分は分からないからそのうち見つけてくれたらいいよ。悩ましい相談ばかりだが、関わりの中で本人の意向を知ることが貴重な情報である。

死を意識した瞬間が具体的な死を考えるきっかけである。この世に生まれてから、生きることばかり考えてきた。死は終わりをイメージさせ、すべての人が死ぬにも関わらず、受け入れ

にくい。身近な人が亡くなる辛さ、悲しみ、喪失感は人生を後ろ向きにさせる。

医療技術の発達により、高度な蘇生技術を使えば、死を回避できることが可能になってきたことは事実である。多死社会を迎えるにあたって、我々ソーシャルワーカーは、人生の最終段階における支援をどのように受け止めればよいのだろうか。その人との関わりの中で、その人らしい人生を最期まで支援するには、高い倫理観と専門性も必要になる。

我々ソーシャルワーカーが医療職とは異なる立ち位置で、本人や家族を丁寧に支援することは、思いや意向を受け止める機会が増え、それらは終末期のストーリーを構成する材料となる。ソーシャルワーカーとして、その人の人生や死と深く関わることを誇りに思う。

地元で 集まる!! 学ぶ!!

県内各地で、地域集会在開催されています。そこでは、熱い想いを持った社会福祉士と出会い、共に研修で学ぶことができます。最新の地域集会開催情報をホームページでチェックできます。



一般社団法人
千葉県社会福祉士会

社会福祉士は、生活の困りごとが起きたときに役に立つ「福祉の最先案内人」です。

[入会について](#)
[情報公開のページ](#)
[THINくん?](#)

県民の皆様へ	会員の皆様へ	社会福祉士になろう!	求人情報	会主催の研修
他会の研修・イベント等	会員向け研修	千葉県社会福祉士会について	広報のご紹介	被災地支援
	総会・理事会議事録 会員向け求人情報 地域集会 規程集	 五感で感じる!! 社会福祉士 一般社団法人 千葉県社会福祉士会		

一般社団法人千葉県社会福祉士会へようこそ!

海や山の恋しい季節となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。
さて、会員みなさまのご協力のもと、第7回定時総会を無事に開催することが出来ました。ご出席いただいたみなさま、書面表決・委任状をご送付いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。
今後とも、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
お忙しい日々をお過ごしのことと思います。これから暑い日々を迎える時期ですが、くれぐれもご自愛ください。

研修等・行事のお知らせ

- 成年後見人材育成研修（7月20日（土）・8月23日（金）・9月21日（土）・10月26日（土））
- 2019年度 第2回 必須登録員研修会（8月3日（土））
- 第19回 支援者のための成年後見制度活用講座（9月6日（金）・7日（土））
- 刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（応用編）（10月5日（土）・6日（日））
- 千葉サポート（全9回開催）
第4回（7月27日（土））・第5回（8月24日（土））・第6回（9月28日（土））
- テーマ別弁護士との事例検討会（全6回開催）
第3回（7月27日（土））・第4回（9月28日（土））・第5回（11月14日（木））
- 成年後見名簿登録研修（11月23日（土））
- 実習指導者講習会（11月23日（土）・24日（日））

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。
千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

会員の皆様へお願い

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。
入会時と変更がある場合は、事務局までご連絡ください。（E-mail：office@cschwchiba.com）
変更届は会員名簿巻末に準備がございます。メール、FAX、郵送いずれかで提出をお願いします。
お早めに手続きをお願いします。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
湯浅 美和子	千葉市	NPO 法人 ちばこどもおうえんだん			

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成31年4月10日現在の会員数

正会員 1,465名、 準会員 3名、 賛助会員 2名 合計 1,470名